

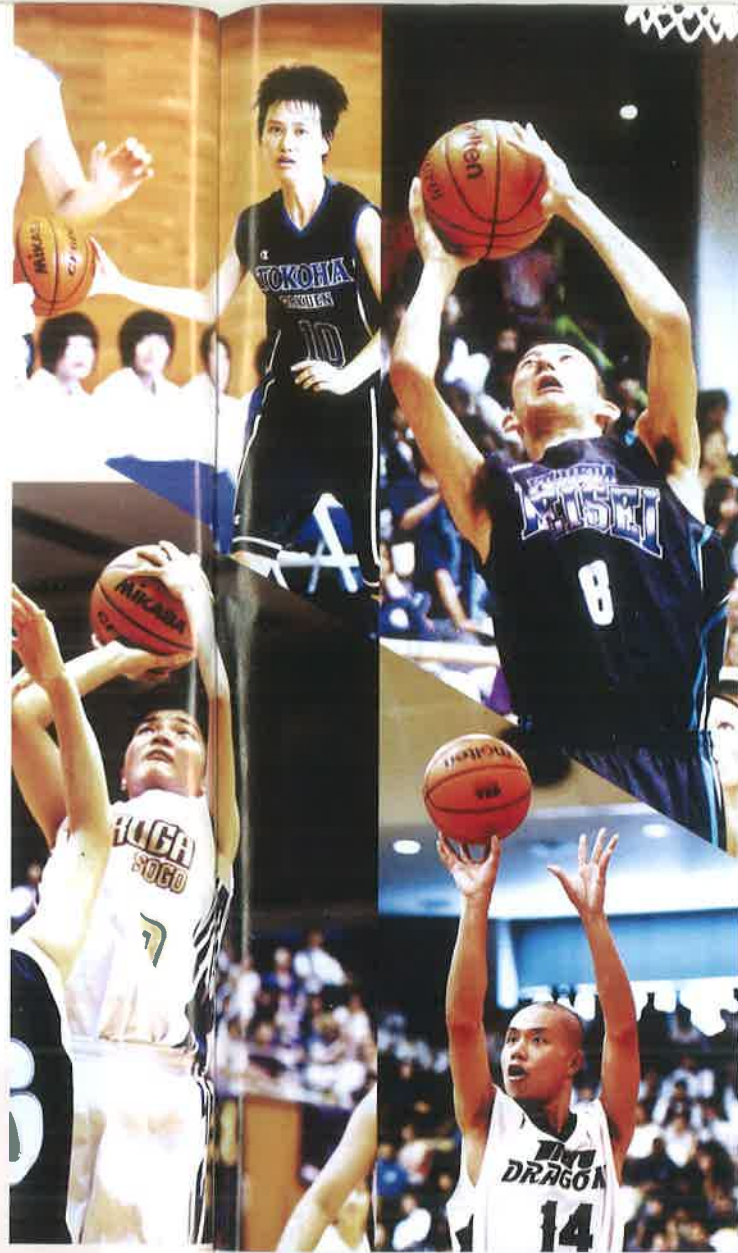
本 命は昨年の覇者、藤枝明誠。史上最年少で日本代表に選出されは2年、エース角野亮伍のプレーを見られる最後の大会となる。その角野を中心にガードの阿部駿太、中盤の宮越康博、川原一仁、196cmの高身長センター片山和哉、192cmで中国人留学生の潘広農など各ポジションバランスの取れたチームである。登録15人の平均身長も182.4cmと他校と比べ群を抜いている。今夏の総体全国大会も3回戦で東海大(北海道)に惜敗したものの、強豪正智深谷(埼玉)、華張総合(千葉)を破るなど戦力は充実期にある。連覇で5回目の優勝を狙う大本命のチームに死角は無いように思われる。

対抗は飛龍、沼津中央の両チーム。飛龍は総体県予選決勝リーグで2位を争っていた沼津中央に67対65で辛くも勝利し7年ぶりの全国出場を果たした。総体全国大会では帝京長岡(新潟)のマリ人留学生への対応に苦しみ敗れたが、今大会では中国人留学生陳東祥とフェン俊凱を交互に効果的に使って高で勝負、8年ぶりの優勝をうかがう。主将長島連や2年生エース安部紘貴の巧

みなドライブもチームのオフenseにリズムを加える。もう一つの対抗馬、沼津中央は藤枝明誠に負けず劣らずタレント揃いのチーム。総体県予選は3位で惜しくも全国出場を逃したが、出場した東海総体では8月の総体全国大会で3位になった桜丘(愛知)に快勝。準決勝で藤枝明誠との静岡ダービーに78対79で敗れたものの、互角以上の戦いを演じたチーム全体のポテンシャルの高さを見せて

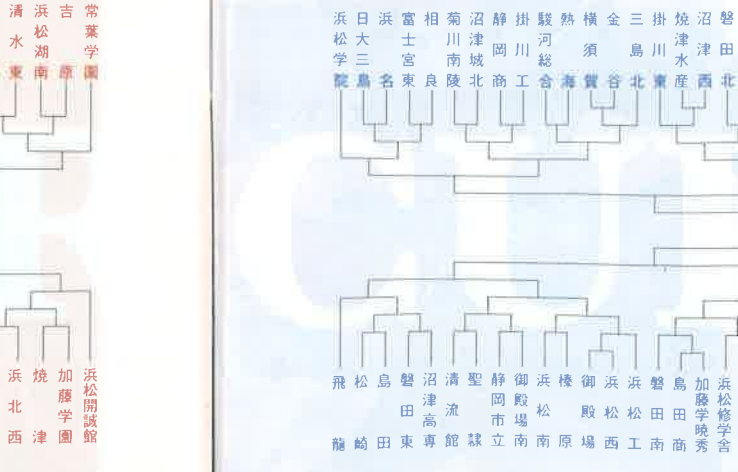
た。司令塔藤原翔真、中盤の大橋聖也、インサイドのベルナルド・モリタという3人の国体県選抜選手を抱え、特に2年時に福岡第一(福岡)から転校してきた大橋のドライブによる突破力はなかなか止められない。昨年は県代表決定戦で飛龍を下し、4年連続となるウインターカップ出場を果たしたが決勝戦で藤枝明誠に惜しくも敗れ優勝を逃した。今大会2年ぶりの優勝で5年連続のウインターカップ出場を飾るためには準

決勝で予想される飛龍との今季3度目の戦いが最大の山場となる。東部総体予選、総体県予選と連敗しているだけに雪辱を期しているはずである。3強を猛追するのが、総体県予選4位の浜松学院。安定した実力を持つ上級生に加え、昨年の静岡全中で優勝、大会ベスト5に選出された田中旭、横川真那斗の1年生コンビが加入、層の厚みが増した。総体県予選から5ヶ月、経験値を重ねた選手たちが王者藤枝明誠に挑む。その他、国体県選抜選手、下瑞穂を擁する浜松開誠館も侮れない。6年前に浜松開誠館中学男子バスケット部が創部、その時入部した選手たちが今大会高校3年生として最後の大会に臨む。現役時代日本代表選手として活躍した後藤正規の手腕にも注目したい。まずは準々決勝で予想される沼津中央との試合がポイントとなる。総体県予選8強の静岡学園も上位争いに絡んでくることは必至。一方で同じく8強の常葉学園菊川、静岡東は、主力の3年生が引退。新メンバーでどこまで戦えるかも注目である。



ウインターカップ2014 県予選展望

中島 洋己=文
(静岡県バスケットボール協会広報委員長・浜松市立高校教諭)
D-sports編集部 = 文責
※本文中の敬称略



今 年も常葉学園と駿河総合の中部勢2強中心の争いになると思われる。常葉学園は3年生の稲葉さつき、さくら姉妹に2012年の埼玉全中で3位になったときの主力であるエース篠宮杏奈、見崎南美、柴美佑そして高校から常葉学園に加わった河合夏海など戦力が多彩。ただチーム最高身長が172cmで全国レベルから見ると決して大きいとは言えない。総体県予選決勝リーグは駿河総合の猛追に耐えきり優勝。総体全国大会では山形市立商業(山形)に敗れたが、総合力で頭一つ抜けているように思われる。今年も堅実なバスケットで4年連続15回目の優勝とウインターカップ出場を狙う。

をもたらすことができるか。この2校に迫るのが浜松開誠館。総体県予選では惜しくも3位となり全国を逃したが、出場した東海総体では1回戦県立岐阜商業(岐阜)に圧勝、強さを見せつけた。決勝リーグで脚を負傷した伊藤琴野の復調度合いが気になるが、司令塔杉浦佑奈、中盤小幡美乃理の国体県選抜コンビの得点力は素晴らしいものがある。特に杉浦は8月の東海国体の岐阜戦、3点Pシユートを決めた際、延長に持ち込む3Pシユートを決め静岡県に勝利をもたらした。カギを握るのは伊藤を補佐するセンターだが173cmと長身の2年生平野未来が任される模様。得意の全

総体県予選4強以外では市立沼津、藤枝順心が優勝争いの台風の目になると思われる。市立沼津は昨年準優勝。1年時から主力で国体県選抜選手でもある齋藤さき、渡邊優花に阿部田瑞穂を加えた3年生が4強以上進出のカギを握る。準々決勝では総体県予選準々決勝で72対66で惜敗した駿河総合と対戦が予想される。総体県予選では後半の猛追があと一歩及ばなかったが、準々決勝を突破すれば4年ぶり12回目の優勝も見えてくるはず。藤枝順心は新人戦県大会4位、総体県予選ベスト8。総体県予選の準々決勝では浜松開誠館に終了間際で逆転され初の決勝リーグ進出を阻まれた。3年生が一部引退し、3年生3人と1、2年生というチーム編成だが、新人戦県大会・総体県予選上位進出の立役者、173cmのセンター福井咲、インサイドへの抜群の突破力を誇る柴田江マ、アウトサイドシユートを得意とする高橋萌花などが、準々決勝で対戦が予想される浜松海の星との戦いでどこまで踏ん張れるか。浜松海の星と藤枝順心は今年2月の新人戦県大会3位決定戦(東海新人出場決定戦)で対戦、藤枝順心は終盤に足が止まり力尽き、東海新人出場を逃し、一方の海の星は初の東海大会出場を決め、明暗を分けた。藤枝順心が新人戦県大会のリベンジを果たせるか、海の星が再び討ちにするか注目である。

【女子】

駿河総合は県2位で出場した総体全国大会で1回戦鹿兒島純心女子(鹿兒島)に圧勝、2回戦では総体全国大会3位の大坂薫英女子学院(大阪)に敗れたが接戦を演じた。国体女子県選抜主将を務めたガード遠藤美紀が唯一の3年生だが、華麗なパスワークは他の追随を許さない。さらにセンター陣は国体県選抜選手の172cm池ヶ谷優香、178cm大串梨沙を始め1年生センターの加藤陽も178cmと高さは群を抜いている。登録選手の平均身長も167cm、この高さはどう生かしていくか注目である。チームを率いる青木良浩は過去市立沼津時代に8回、静岡商業時代に2回の優勝および全国選抜大会出場経験を持つ。今大会で優勝し、自身3校目の優勝、ウインターカップ出場そして創立2年目の駿河総合に初の栄冠

員一丸バスケットで1986年の浜松市立以来28年ぶりの西部地区女子優勝を狙う。総体県予選4強の一角、浜松海の星は3年生中心のチーム。国体県選抜センターの坂口日菜、鈴木葉央のツインタワー、ゲームキャプテンとしてチームを引っ張る出羽彩乃、司令塔高井香凛、野中梨緒、中盤の徳増美佳、松原杏花の3年生7人を中心としたバスケットで初優勝を狙う。対戦チームが国体センターコンビをいかに抑えていくか、東海国体で実戦を積んだこの2人がどれだけ得点を重ねていくのか楽しみである。浜松開誠館同様、西部地区女子バスケットの復活という大役も担う。

その他、スピード感あふれる大型センター小林梨花を擁する沼津中央、リズムあるディフェンスが魅力の飛龍も侮れない。

